

通信	支 部
同 舟	
No. 18	
7 月 号	
7月20日編集発行	
東京都宅地建物 取引業協会 府 中 支 部 編集兼発行人 高野豊次	

七月定例理事会開催

と き 七月十六日午後五時
と ころ ダイワ不動産
出席者 辻、山村、榎峠、結城、高野、長島、
内山、田中、平井各理事及び加藤監査

一、協議及び伝達事項

(イ) 三多摩連絡協議会に関する件

山村支部長より連絡協議会の研究会及び支部連絡持廻り会議等に関し報告あり一同これを了承した。

(ロ) 本部制定看板に関する件

業協会本部に於て制定した看板は価格四百円にして、これは各協会の外部門標として表示を要するもの近く配付の見込なるも、当支部として配付にさいしては有償か無償かは目下検討中の旨、

人 と 店

府中の業者で一番地の利を得てある店舗といえは京王線府中駅前の守屋商会がその一つである。

仮に貸家貸問だけでも優に他社の常時収入をオーバーするといふから羨望の至りだ。

経営者榎峠君は大正十一年広島県の産、実に言行一致の人で特に責任感が強く仕事となると儲かる儲からないとは別として、二宮金次郎にも似た努力精進家である。

高幡に支店があり本店は正子夫人が殆んど一人で切廻してゐる。

ご本人の趣味は多種多様であるが囲碁も亦その一つに数えられ、相当の実力あり、加藤武君とは又とない好敵手の様である。

家庭には二女あり時折り家族打揃つてうまいものを食いに歩くあたり家庭サービスも満点にして和気あいあい実に美しい限りである。

今後の努力と自重自愛を望んで止まない。

一 口 随 筆

文彦は農林学校を卒業すると直ちに自分の町にある山の役所に就職した。一年位は事務の見習いをしておつたが今度は現場の仕事を得なければならぬと云ふので、二年目には人里を八キロも離れた山中の一軒家に勤務することとなつた。尤も山中の一軒家といつても、その建物の中には部下四人が同居しており、事務所の廻りには炭焼き凡そ百二十人と柚夫等六十人も点宿してゐるので日中は差程さびしいと思はなかつた。そして時には炭焼き小屋を巡回したり、柚夫とドロクをのんだりして呑気に日を過ごすことが多かつた。丁度六月の定時打合せ会があり四キロほど下流の下事務所まで行きその帰り道のことである梅雨模様の日暮れどきであり、急に気温が下つた勢か深いモヤとなり、三尺さきも見えかねぬ状態である、こんな中を一人で前方をみつめ乍ら森の中の森林鉄道を歩くのだから心細いこと限り

辻理事より説明あり。

(イ) 使用人変更に関する件

組合員に於て使用する使用人を新規採用又は解雇、退職等の場合、必ず支部長経由、東京都知事へ報告すべきものなるも、従来とかくルーズ勝ちに付今後厳格に励行せられたる旨、辻理事より説明あり。

(ロ) 本部各部会の模様に関する件

A 報道部会、高野理事より委細報告あり。特に当支部の暑中見舞を二千元を以て、盛夏号に掲載することにつき了解を求めたところ、一同これを了承した。

B 総務部会、辻理事より委細報告あり。

C 厚生部会、平井理事よりその模様報告あり。

一同これを了承した。尚平井理事の報告によれば組合員及び従業員全体が社会保険に加入すべく準備中の由にして、弔慰金等も本部として支出する事を協議したる模様。

なく、それに名もしれぬ鳥が時々へんな声を出して鳴くので尙更淋しい。大きなカーブを廻つたときのことである、突然線路端の木の株に藪を着た人夫が腰をかけて頭をたれてゐるではないか。それがモヤを通して正に人間である、気持ち悪げに速座に、今晚は!!と声をかけたが何の返事もない、引続いてもう一度又今晚は!!と声高らかに叫んだが更らに無言だ、文彦はこれはどうも変だと思ふとたん背筋のあたりに冷たい汗の流れるのを、そして髪の毛が一本一本よだつのを覚えた。

文彦はもう駄目だと思ひ後をふり返るひまもなく事務所まで息せき切つて帰つた。

その晩は今あつた事情を下僚に伝えることなく休んだが、その翌日夕べの人夫が腰かけておつた丁度その場所でトロッコが脱線し四国から来てゐた国金といふ人夫が材木の下敷きとなつて殉職してしまつた。その殉職と夕べの返事をしなかつた人間?とが何か関係がありそうではない。

文彦は四〇年も前の出来ごとを今以て走馬燈の様に考え続けるのであつた。

◎ 消 息

高野不動産株式会社は今般次の通り取引業の免許を得た。

免許番号 (1) 七三四

免許年月日 昭和四十年六月二十五日

◎ 編 輯 後 記

○支部役員も本部よりの部会招集頻繁で洵に御苦勞様である。

○然しよき協会を作らんとせば一同が懸命の努力を要することは言をまたない。

○唯、業界は相変らずの不景気で同志の中にはこれが不況に耐え難く落伍する者なきにあらざるかを心配する。

○出来ることならこれらの落伍者を何とかして助けたいものであると同時に一日も早く好景氣到来を!!

昭和四十年七月十五日 夜 高野 するす